

## 岐阜市教育振興基本計画策定にあたっての提案

杉田憲夫

8月30日の第2回委員会に出席できませんので、第1回委員会以降いろいろ考え気になったことを提案という形で提示させていただきます。

教育大綱の最後に、『特に子供たちの教育において重要な役割を担う「教員の指導力の向上」に取り組めます』と記載されています。したがって、今回教育振興基本計画を策定するにあたっては、どのように教員の指導力の向上に取り組むのか、その具体的な実現に繋がる方針を明確に立てる必要があると考えます。

教育基本法第9条2項では、教員についてはその使命と職責の重要性にかんがみ、その身分は尊重され、待遇の適正が期せられるとともに、養成と研修の充実が図られなければならないと規定しています。

私が関わりを持っている教員の多くが心身をすり減らして教育現場で頑張りが過ぎていと言わざるを得ない状況です。彼らは今やっている仕事をこなしていくことが精一杯で、これ以上何かやれと言われても不可能と言わざるを得ないと訴えています。立派な研修システムを用意すれば教員の指導力が向上するものなのかしっかり考えないといけないと思います。

たまたま、8月14日付朝日新聞朝刊に「組み体操広がる中止」という記事が一面で取り上げられており、安全学ぶ研修徹底をと主張されていました。そして、専門家から教員が研修を受ける場が全国で増えているが、組み体操を続けるのであれば、こうした取り組みをさらに徹底することが求められると結ばれていました。こうした動きが現場の教員の負担をより厳しいものにしていくのではないかと言わざるを得ません。

私自身の体験を述べさせていただきます。

一つは小学校低学年だったと記憶していますが、虫眼鏡を使った授業の後で放課後に太陽の光を虫眼鏡で集めると紙が燃えることが面白くて新聞紙を燃やして遊んでいました。そこに一人の先生が来られて叱るのではなくどうして太陽の光を集めると新聞紙が燃えるのかなと話しかけられました。答えられずに戸惑っている私たちにその先生は教えてくださいました。太陽の光を集めると熱が出てくるのは太陽が活着ているからだ。活着ている太陽の熱をもらうからその熱が火になるんだよ。活着ている太陽の光を大事にしなさいと。

もう一つは高校の頃、国語の先生が夏休みの宿題として自宅ですべての新

聞の第一面に出てくる漢字をすべてノートに書きだしてくるよという課題を与えられたことがありました。毎日面倒だなと思いつつも一応漢字を書きだして提出しました。その先生は、毎日嫌々ながら新聞の一面を見て少しは世の中の動きに関心を持つことができたろうと言われました。確かに知らない間に新聞を一面から読む習慣がついていました。それは今でも続いています。

この私の体験は、この先生方が指導力に関して個人的に資質があったからではなく、このころの先生方が仕事に追いまわられていなかったことが大きく関与していたものだと思います。小学校のころの思い出といえば授業ではなく放課後に先生と一緒に夕方まで遊んで、授業では聞けなかった戦争中の給食の話や、先生自身が戦争に行った話等々の思い出がたくさんあります。

子供たちを元気にする良い教育は教員が元気でなければできないと思います。教員が元気になる一番の素は仕事量を減らしていくことだと考えております。岐阜市が教育立市を掲げていくのならもっと教育分野に必要なお金をかけていただけるように主張しないといけません。

提案の第一は教員の定員を増やすこと。少なくとも学級定員を20名に近づけていくことを検討してもらうように働きかけましょう。

第二は各学校に複数の事務職員を配置すること。教員に事務的な仕事を押し付けることで教員の指導力は損なわれると断言していいと思っております。

まだ他にもいろいろ出てくるかと思いますが、まずは教育にマンパワーをとという観点から提案させていただきました。